

地域課題の解決に向けた取組み

# 紋別海岸防風保安林の森林造成の取組み

網走西部森林管理署

西紋別支署

## 【地域の現状と問題点】

紋別海岸防風保安林はオホーツク海から吹く寒冷的な強風から農地を守るため、昭和33年～50年にかけて造成されました。

当該防風保安林は、現在海岸侵食が進み、林帯幅が80m→50m程度まで減少しており、林帯の海側では、侵食による林冠破壊と海岸線の接近による飛来塩分の増加等の影響により、急速に疎林化が進行しています。一方、陸側では密植造林地が過密化していることから、防風林を維持するため植栽・本数調整伐などの再整備が必要となっています。

## 【現在までの取組み】

### ●植栽試験（令和元年）

疎林化した林分回復のため、令和元年度に植栽試験を実施しました。

試験地には、通常植と密植の2区画に分け、アカエゾマツ裸苗を植栽しましたが、令和3年度調査結果では、両区画とも5割の枯損が確認されました。



令和3年度 植栽試験地

このことから、現地検討会や施工業者からの聞き取りを行い「苗木の活着不良」、「土壌（粘性土）による生育の悪さ」、「防風柵の施工性」などの課題が露呈したことから、当該箇所については令和4年度以降に補植を実施し、さらに経過を観察する予定です。

### ●植栽試験（令和3年）

令和元年度植栽試験で確認された課題を受け、令和3年度に新たな植栽試験を実施しました。

苗木は裸苗に比べ活着がよいとされるアカエゾマツコンテナ苗を選択し、密植で植栽しました。

防風柵は「杭丸太のみ」と「木製板+杭丸太」の2種類を設置しました。施工方法は、床堀箇所柵を設置する工法で、購入土で埋めた前回に比べ、残土が発生せず埋戻しも不要となりました。

試験地内は2区画に分けており、「植栽用客土」、「現地土+砂質礫の混合材」を敷設しています。

令和4年度はミスナラ、カシワの植栽を予定しており、より現地の環境に適した樹種の調査を行います。

### ●本数調整伐試験

過密化林分2小班に対し令和元年度に本数調整伐を実施しました。

伐採したことで、樹冠がうつ閉した林分の日照を回復させるとともに、残存木の成長スペースを確保し、森林の公益的機能を高度に発揮出来る林分へと変化することを期待しています。

当該箇所は、密植造林地のため、伐採の際に、かかり木が発生しやすく、現地発生材の林外への搬出が難

しいことから、今後は「林外への搬出を可能にするため伐採方法を列状で行う」、「現地発生材の有効利用」等、作業する中で検討・検証することが重要と考えています。



本数調整伐実施箇所

## 【今後に向けて】

海岸防風林の整備は、防風・防潮の機能維持に加え、景観の向上という効果も付随するため、地域振興の観点からも重要です。

今後も内陸部の公園や国道、紋別空港などの保全対象を守り地域振興への一助とするため、森林の再生に取り組んでいきます。